

社内研修

北上川水系水質汚濁対策連絡協議会下流支局
江合川及び鳴瀬川水系水質汚濁対策連絡協議会
令和6年度 水質事故対応講習会

今回は、涌谷地区河川防災ステーションで行われた「令和6年度水質事故対応講習会」に弊社の職員が参加してまいりました。河川や湖沼での油類等が流出する水質事故に備える為、油流出事故発生時の対応について学んでまいりましたので、その様子をお伝えいたします。



河川・湖沼での水質事故の原因とは？
どのような影響があるのでしょうか？

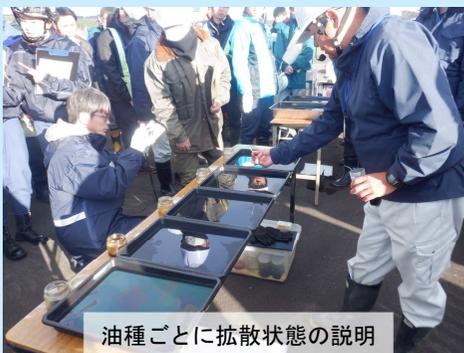


これまでに発生した河川水質事故をみると、事故発生の原因として油の流出による事故が最も多く、全水質事故の約70%を占めています。油流出の原因物質では灯油が最も多く、発生時期は暖房用に灯油を使用する冬季が多いそうです。油による水質事故が発生すると、河川の生態や利水、漁業等広範囲に影響がある為、適切な対応が必要です。



油流出事故対策講習の様子

油処理について



油種ごとに拡散状態の説明



油処理剤を使用し分散状態の説明

河川に流出した油は、水と中和しない為水に浮きます。油種によって油膜の拡散状態も異なり、界面活性剤等の油処理剤は油を乳化・分散させるだけで完全に回収することはできない為、油を回収・処理することが油流出事故ではとても重要です。講習会では、3つの油回収方法の訓練を行いました。

① 道路上（床面）等での油回収方法

油吸着材を使用



実践講習の様子



油吸着材を混ぜて回収

油がある場所の下手に土手を作り、油に路面用油吸着材を撒いてブラシで大きく混ぜ、馴染ませて回収する。回収した油は産業廃棄物として処分する。

② 側溝での油回収方法

土のうで堰き止め



弊社の社員も参加しました！



側溝での事故対応

水路や側溝では土のうを積んで水を堰き止め、間には水を通す排水パイプを挟む。油が下流へ拡散することを防ぎながら、浮上する油を吸着マットを使用して回収を行う。

③ 小河川での油回収方法

オイルフェンスの設置



オイルフェンスの説明



オイルフェンスの展張実践

河川ではオイルフェンスを使用し流下拡散を防止する。起点は下流から上流に、斜め45度を目安にオイルフェンス引き上げ固定する。オイルフェンスの端を土のうで押さえ、上流側に油を集めて吸着マットで回収する。

今回の講習会を通じて、油流出時の事故処理は迅速な対応が求められ、事故に応じて様々な回収方法がある事を学びました。水質事故が発生した場合に備え、より迅速な事故対応ができるよう日頃から社内訓練を行い、周知してまいります。